

# 日本文化人類学会 50 周年記念事業

## 募金趣意書



2013 年 11 月 11 日

日本文化人類学会 50 周年記念事業募金委員会

各位

2014年5月、設立50周年を迎える日本文化人類学会は、全世界の人類学会と研究者の協力を受け、大規模な国際会議を幕張メッセで開催します。同時に東京六本木での展覧会や日本全国各地での一般向け講演会の開催を通じて、文化人類学を世界と社会に対して大きく開き、この学問が日本と国際社会に貢献する力を強化しようとしています。皆様方のご理解とご支援をお願いいたしたく、以下に記念事業についてご説明させていただきます。

### 澁澤敬三と文化人類学

日本文化人類学会の起源は、日本の財界の基礎を築いた澁澤栄一の孫、澁澤敬三に遡ります。栄一に懇請されてその後を継いだ敬三は、自身も大蔵大臣や日銀総裁を務めました。その心は常に民族学という学問にあり、1934年には日本民族学会設立の中心になりました。これが今日の日本文化人類学会の起源です。澁澤が遺した財団法人民族学振興会（Shibusawa Foundation for Ethnological Studies）は、長年にわたり文化人類学の発展を支え、現在でも公益信託澁澤民族学振興基金として大きな恩恵を与え続けています。

### グローバル化と文化人類学

澁澤の時代とは異なり、グローバル化と複雑化が進みすべてが流動化しつつある現在、文化人類学という学問の重要性は急速に高まりつつあります。環境問題、資源エネルギー問題、一部地域での人口爆発と他の地域での超高齢化など地球規模の問題をはじめ、貧富その他の格差の拡大、移民と難民の増大、民族間や宗教間の対立、領土や資源をめぐる紛争など社会の軋轢ばかりでなく、自然災害への予防と復興、国際競争の激化による経済発展の不可能化、情報通信技術の急激な発展による予期せぬ根源的社会変容など、いま何が起こっているのかを理解することさえ難しく、解決はさらに難しいと思われるような課題が山積しています。それでも私たちは、たとえその一部分ではあっても、積極的に問題解決を試みていかなければなりません。

### 文化人類学が生んだもの

急速に変動する状況の中、近代欧米で「未開社会の学」として成立した文化人類学は、その姿を大きく変えてきました。調査対象は小規模な地域民族社会から現代の大都市、さらには宇宙空間やサイバー空間まで拡大し、研究主題は民族社会の伝統的知識から最先端の科学技術や医療現場まで多岐にわたっています。このように、探求の射程や関心の広さと奥行き、アプローチの柔軟さと多様性、基礎研究と実践活動の微妙な間合いの取り方、そして常に「人間」を根源から考え直そうとする姿勢において、文化人類学は人文社会科学の中で独自の位置を占めています。日本研究の古典となったルース・ベネディクトの『菊と刀』や中根千枝の『タテ社会の人間関係』、人文社会科学の全体に巨大な影響を与えたレヴィ=ストロースの構造主義やクリフォード・ギアツの解釈学、また実務の世界でも広く使われている川喜田二郎の「K

「J法」や梅棹忠夫の知的生産の技術などが、すべて文化人類学に生まれたものであることはあまり知られていません。しかし、やはり文化人類学に発する「フィールドワーク」や「エスノグラフィー」という手法がこれから経営・ビジネスを含めた分野でも必須となっていくこと、現在あらゆる分野で叫ばれている「グローバル人材の育成」において、世界を自由に往来して人間の理解に努める文化人類学が主要な役割を果たしていくことは明らかであるように思われます。

## 記念大会と全世界の協力

澁澤の日本民族学会は1964年に現在の新組織に姿を変え、いまでは会員数も二千人を越えて米国に次ぐ世界第二位の規模になりました。来る2014年には50周年を迎え、起源から数えれば80周年になります。これを機に、この学会と学問を一層発展させ日本と世界に貢献するため、いくつもの記念事業の準備を進めています。以下の国際会議が全体の柱となります。

日本文化人類学会 50周年記念国際研究大会 (IUAES2014 合同開催)

2014年5月15日(木) - 18日(日) 会場: 幕張メッセ

IUAES 2014 with JASCA "The Future with/of Anthropologies"

<http://www.iuaes.org/japan2014/> (使用言語: 英語)

この記念大会は、国際人類学民族科学連合 (IUAES - International Union of Anthropological and Ethnological Sciences) の中間会議を兼ねて実施されます。IUAES は人類学で世界最大の国際組織で、日本文化人類学会の小泉会長が事務局長を務めています。また本大会は、やはり小泉会長がその会長を務めた人類学会世界協議会 (WCAA - World Council of Anthropological Associations) の全面協力を得ています。このほかアメリカ人類学会 (AAA)、ヨーロッパ社会人類学会 (EASA)、韓国文化人類学会 (KOSCA)、台湾人類民族学会 (TSAE)、東アジア人類学会 (SEAA)、インド人類学会 (IAA) などのほか、国内の数多くの人類学関連学会の協力を受けており、世界と日本から一千人以上が参加します。

## 記念事業の目的

この国際会議では、「人類学の明日、人類学との明日」(The Future with/of Anthropologies) をテーマとし、この記念すべき時に人類と人類学の未来を展望し、同時に人類学によってどのような未来をもたらすことが可能であるかを考えます。最初にあげたような現代世界の多種多様の困難な課題に取り組むため、多元的な(複数形の)人類学 anthropologies のあり方を議論し模索しようとしています。現代世界を生きる人々をその人々自身の視点からよりよく理解しようとする文化人類学によって、新しい未来を志向したいと考えています。

また、この記念大会と並行して、国立新美術館と国立民族学博物館の主催、本学会の共催で、記念展示「イメージの力——国立民族学博物館コレクションにさぐる」を、2014年2月19日(水)から6月9日(月)まで六本木の国立新美術館で開催します。全世界の人々が日常的に使うさまざまな「もの」を、芸術の視点から「アート」として見たときにそれがどれほどの力に溢れ、私たちを私たちの知らない世界に導くかを考えようとするものです。なお、大阪の国立民族学博物館のコレクションは今回初めて東京で展示されます。

このほかにも、文化人類学に対する理解を深めていただくために、専門家以外に広く一般に向けたシンポジウム等の開催を全国各地で企画しています。

## ご支援のお願い

日本の文化人類学の学問成果を国内外に広く発信し、世界の諸学会・研究者との連携を強化し本学会を大きく発展させようとする本記念事業の実施には、予算的裏付けが必須であることは言うまでもありません。本学会の記念事業準備委員会では、申請可能な国内外すべての財団等に助成を申請し、今後も資金獲得の努力を最大限続けます。しかし、助成金だけで諸事業を十全に遂行できるとは言い難い状況にあります。事業の成功は全面的に資金に依存し、より多くの資金が得られればそれに比例して大きな成功が得られます。優れた研究者を全世界から招聘し、経済的に恵まれない地域の研究者の旅費・滞在費を支援するために、また現時点で既に予想をはるかに超えている参加者のために会場を確保し、成果を完全に広報・出版し、充実した市民講座を実現するためには資金が必要です。そこで、中根千枝先生を募金呼びかけ人代表、小泉潤二本学会会長を委員長として募金委員会を組織し、皆様からのご支援を募らせていただくことになりました。

このご寄附につきましては、特定公益増進法人 日本政府観光局（国際観光振興機構 JNTO）の協力を受けており、法人税法施行令第 77 条及び所得税法施行令第 217 条によって、一般の寄附金とは別枠で損金算入の扱いが受けられることになっております。

記念事業の趣旨を何卒ご理解いただき、日本文化人類学会と人類学・民族学の世界的な発展のため、皆様方の多大なご支援とご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

2013 年 11 月 11 日

日本文化人類学会 50 周年記念事業募金委員会

委員長 小泉 潤二

日本文化人類学会会長  
国際人類学民族科学連合（IUAES）事務局長  
人類学会世界協議会（WCAA）元会長  
大阪大学名誉教授 未来戦略機構特任教授  
大阪大学 グローバルコラボレーションセンター（GLOCOL）招聘教授  
大阪大学前理事・副学長  
公益財団法人 国際高等研究所副所長  
（株）原子力安全システム研究所 社会システム研究所長

副委員長 栗本 英世

大阪大学大学院人間科学研究科教授  
大阪大学 グローバルコラボレーションセンター（GLOCOL）前センター長

副委員長 綾部 真雄

首都大学東京大学院人文科学研究科教授  
事務局長 森山 工  
東京大学大学院総合文化研究科教授  
東京大学 前総長補佐

## 記

ご寄附をいただける場合、添付の国際観光振興機構による文書「寄附金についてのご案内（寄附金受入手順）」によりお振込みいただきたくお願い申し上げます。

1. 同封の「寄附金申込書」（様式第5号）に寄附額と支払予定日をご記入の上、国際観光振興機構宛にご郵送ください。郵送用の封筒を同封しております。
2. 同機構から「寄附金申込受理書」（様式第6号）を受領されましたら、同機構が指定する寄附金払込口座（みずほ銀行銀座支店）に寄附金をお振込みください。
3. 振込が確認され次第、同機構から領収書（様式第7号）が送付されます。
4. 上記の通り、この寄附金につきましては、所得税法および法人税法上の課税優遇措置を受けることができます。
5. ご協力いただいた寄附金は、同機構から日本文化人類学会に対して交付されます。

企業・団体様は一口 100,000 円、個人様は一口 5,000 円をお願いしております。一口以上何口でも結構ですので、よろしくお願い申し上げます。

ご寄附をいただいた方々には、事業終了後、監査を受けた会計報告と会議報告を寄附者一覧とともにお送りさせていただきます。

---

## ◆ 日本文化人類学会 50 周年記念事業 ◆

〒108-0073 東京都港区三田 2-1-1-813

日本文化人類学会 50 周年記念事業準備委員会事務局

TEL 03-5232-0920

FAX 03-5232-0922

e-mail: [conference\\_secretary@jasca.org](mailto:conference_secretary@jasca.org)

---